

データサイエンスプログラム基礎

自己点検・評価報告書

令和 6 年度

甲子園大学

1. 自己点検・評価の実施

本学のデータサイエンス基礎プログラムにおいて、共通教育推進センター委員会は、令和 6 年度実施のプログラム実施状況について自己点検・評価を実施した。

2. 自己点検・評価の項目

本プログラム全体の点検・評価においては、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目を基準に評価を行った。プログラムを構成する個々の授業科目の評価については、シラバスや成績評価の妥当性、全学授業アンケートの結果を参考に評価を実施した。

3. 評価結果の判定

三段階の評価レベルで判定を行った。

3：優れたレベルの取組みである。

2：標準的なレベルの取組みである。

1：改善の必要がある。

4. 自己点検・評価結果

自己点検・ 評価の観点	自己点検・結果	評価
学内からの観点		
プログラムの履修・修得状況	令和 6 年度の履修者は計 35 名（栄養学科）であり、修了者は 34 名であった。収容定員に対して在籍学生数が少ないこと、また、令和 6 年 1 年分のみの実施であることから、1 年次在籍者数に対する履修率、修得率はそれぞれ 45%、44%であり、履修状況・修得状況において概ね成果が上げられたと考えている。また、教員のオフィスアワーを活用し学生へのフォロー体制を整えている。	3
自己点検・ 評価の観点	自己点検・	環境 役割／規模
学内からの観点		
学修成果	学修成果については、教務課が実施する年 2 回の授業アンケート	

	結果により、授業内容への出席率や満足度を把握することができる。なお、令和6年度の授業アンケートでは、必修とされた授業の平均値として、情報処理演習Ⅱの授業が出席率は80%以上が100%、満足度は5段階評価で4.4、統計学入門の授業がそれぞれ、97%、4.4であった。これら結果と、授業時の課題提出状況や試験等の結果をもとに、本教育プログラムの評価と改善に活用していく予定である。	3
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	教務課が年2回の学生への授業アンケートを実施している。授業アンケートでは、学生本人に関すること、授業担当教員に関すること、全般的な授業の満足度の到達度等を項目にしており、「内容が理解できるような授業の工夫」「授業内容の理解のしやすさ」を質問項目に入れ、内容の理解度を図る尺度にしている。アンケート結果は、各授業担当教員には担当科目分の結果を通知している。担当教員は、「担当授業の自己評価及び改善計画」を提出し、授業改善のPDCAを回し、さらなる授業改善を行い学生の当該科目の内容の理解を高める体制をとっている。	3
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	従来、学部・学科によって、情報関係の科目の内容や名称が異なっていた。また、統計学入門の内容も学部ごとに異なっていたが、令和5年から、本プログラムを開始するにあたり、内容の共通化、また、令和6年度から全学共通受講科目として科目を「情報処理演習Ⅱ」「統計学入門」に統一して学生全員が受講しやすい体制を整えた。なお、全学部・学科の学生全員が受講できる体制は令和5年度以前から達成されている。	3
学外からの観点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和5年度開講となるため、プログラム修了者のなかで現時点卒業生を輩出していない。よって、進路状況等の評価は確認できない状況にある。令和8年度終了時点で、卒業生が排出されるため、以降、本学キャリアセンターからの就職率データ、また、教務課からのGPAデータによって、多角的に本プログラムの有効性について検証する予定である。	評価不能
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	デジタル関連企業や、デジタル・AI活用を図る各種業界の動向を常に注視し、大学として企業の求める人材養成に向けて、本教育プログラムの内容・方法の見直し・改善を図っていく。また、企業だけでなく、教育や福祉関連団体等の動向にも注視していく。	2

数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムを通じて、「数理・データサイエンス・AI」を理解し、課題解決の手法の実践的な理解を図ることを目指す。自らの生活の視点からデータの理解や新たな課題発見と解決を発見する。このプロセスを通じて、自らのキャリアデザイン、グローバルな見方と思考力、デジタル表現等、本学が期待する能力を身につけさせたい。	2
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業改善のために原則、毎回授業において、学生の授業前後のやる気度・理解度・満足度・コメントの記入欄のある「やる気度チェックシート」を受講生に記入してもらい、次回授業で教員が講評することでフィードバックを行っている。さらに、内容・水準を維持・向上しつつ、分かりやすい授業にするために、全学的に授業公開を行っており、授業時の課題等を相互に確認・改善を図る機会となっている。	3